販売士・ふくおか

発行：福岡販売士協会
平成２２年９月２９日
第２５号・１部 200 円

“第9回 夏期研修会”を開催 H22 年 7 月 17 日(土)

～ 明日を拓く九州新幹線“鹿児島ルート”を学ぶ ～

＝ 研修会次第 ＝

（ところ 福岡商工会議所）

司会：理事 八尋 晃仁

開会 １４：００

開会挨拶と講師紹介 会長 栗川 久明

第一部 講演

演題 『九州新幹線 鹿児島ルート』

講師 福岡県 県土整備部 企画交通課 谷川 清敏 参事

第二部 交流懇親会

挨拶と乾杯

福岡商工会議所 検定・企業研修グループ長 池 公一郎 課長

歓談 今春の一級合格者紹介と参加者スピーチ

閉会挨拶 副会長 石原 義曠

閉会 １７：３０

梅雨明けとなった７月１７日（土）の午後、温度計がいきなり３４℃を示した猛暑のなか、２４名の参加者が集い今年の夏季研修会を開催しました。

この夏季研修会を振り返ってみますと、これまでに学んできたテーマは「この福岡とか博多の歴史や文化」をはじめ、“流通業のありかた”としての「企業の社会的責任や法的遵守のこと」あるいは「組織や人材育成のこと」とか「小売業の経営戦略に関すること」などと回数を重ねてきましたが、今回で参加者数も延べ２３０名を超えました。

そして、今回学んだテーマは、いよいよ来春には九州新幹線鹿児島ルートが完成し、待望の博多～鹿児島間が開通するということで、この福岡がさらに賑わいと活気に満ちた都市へと発展することが期待されることから、その概要と経済効果や地域振興の効果がどの程度考えられるか等について、福岡県 県土整備部の谷川参事からお話を伺いました。

約一時間ほどの講話でしたが、現実に半年後には実現し将来にわたっても影響する関心ごとでもあることから参加者からの質問も次々と出て、今回もまた活発な研修会となりました。

以下に、当日の概況と講演要旨について略記します。

１、全体概況

定刻どおりの午後２時、全員が揃ったところで、八尋理事の寛いだ雰囲気の司会で始まった今季の研修会は、はじめに栗川会長から「この研修会も今年で９回目を迎えました」との挨拶にあわせ、今年度これまでに実施してきた活動内容の報告や直近に予定している８月の“納涼家族パーティ”への参加案内がありました。

また、同時に今回講演を快く引き受けていただいた福岡県　県土整備部の谷川参事様とご担当の橋村様の紹介があり、講演に入りました。

講演要旨については後述しますが、講演後の交流懇親会では冒頭に、福岡商工会議所の池課長から本研修への感想と今回テーマへの所見などについての挨拶をいただいた後、意気上がる乾杯の音頭で全員が杯を交わし歓談がはじまりました。

歓談途中のスピーチタイムでは、最初に今春一級に合格し初参加されていた横山修二さんが司会から紹介を受けて挨拶をされ、歓迎されていたのをはじめ、いつものように参加者のほぼ全員の方が次々とマイクの前に立ち、お互いの思いや感想などを披露しあったりして、賑やかななかにも和気藹々とした有意義な時間を過ごし合うことができました。

いつもながら、時間が足りないほどにスピーチや歓談が続くなか、最後は石原副会長から「今春、雑誌・ブルータスに掲載された“魅力ある地方都市ランキング５０”で、福岡市が第一位に選ばれていたことを挙げ、九州新幹線開通とあわせ、この恵まれた歴史ある商都であり観光都市でもある福岡の地に、私たちの活動基盤があることに感謝して、これからも研鑽を重ね地域に貢献できれば」との挨拶で締め、全員で博多手一本を入れ散会しました。

２、講演要旨

今回の講演では、プロジェクターに映し出される画面の写真やデータと手もとに配布されたレジュメやパンフなどの資料をもとに、谷川講師から以下のような要旨のお話を伺いました。

（１）まず、「九州新幹線　鹿児島ルート」の目的については

経済の発展や地域振興あるいは生活領域の拡大などを図るためであることを挙げられ、たとえば全線開業５年後の平成２７年には、観光客が５６万人増加することが期待できることとか、集客エリアの広域化によって宿泊費や飲食消費・特産品の売り上げ増など関連産業への波及効果が見込まれ、福岡県全体では４５６億円の経済波及効果を予測しているとのことでした。

（２）また、この「鹿児島ルート２５７Km」の総事業費については

すでに平成１６年３月に開業済みの新八代～鹿児島間の１２７Kmを含め１兆2,５９０億円ということで、そのうちの約三分の一が県負担であるとの紹介がありました。

また、来春完工予定の「博多～新八代間１３０Km」に限っての事業概要についてのお話では、平成１０年３月に着手して以来の総事業費は8,９２０億円で、その工事内容を構造物毎にみると、①「切土・盛土工事が６Km（全延長距離１３０Km の５％)」、②「橋梁

工事が１７Km（同１３%）」、③「高架橋工事が７０Km（同５４%）」④「トンネル工事が３７Km（同２８%）」ということでした。

（３）さらに、新幹線整備に伴う「二酸化炭素排出縮減効果」についても

たとえば、１人を１Km運ぶのに排出する二酸化炭素の比較例として、新幹線を１００とした場合、営業用バスが約３００、国内線航空機が約５００、自家用乗用車が約７５０とのデータが示され、その効果が高いことの紹介がありました。

また、このことに関連し「鹿児島ルート」の開通により博多～鹿児島間が時間的にも１時間２０分と新幹線開業前の在来線時より２時間２０分の短縮効果が得られることからも二酸化炭素縮減の効果につながるとのことでした。

（４）沿線各地における進捗状況と現場の状況について

主な１３地域の区間や駅舎などにおける、用地買収とか工事の現況を写真や資料を示していただきながら、具体的にお話を伺いました。

参考までに、そのなかで福岡県内に新設される３駅舎のデザインコンセプトの紹介がありましたので、略記しておきますと、

① 久留米駅は「文化アート、そして新しき久留米の出発点」
② 筑後船小屋駅は「公園の中の駅」
③ 新大牟田駅は「未来の風を感じる駅」ということで駅舎づくりが行われているとのことでした。

（５）その他のお話としては

たとえば、山陽新幹線からの乗り入れについては、鹿児島ルートは勾配のきついところが多いことから「のぞみ」などの現行車両では出力不足であるため、新たに開発した新車両「さくら」が運行されるということや、この８月末から新大牟田駅では試運転を開始し、１０月初旬には博多駅でも見られるなどの紹介がありました。

なお、以上の要旨は一聴講者として把握した略記ですので、今回は参加者各位からも本研修への感想等を寄せてもらいました。あわせて別記欄をご覧下さい。

（副会長　石原　義曠　記）

■参加者感想

【渡辺　芳雄】

夢のある全線開業の全体像が分かり、ますます開業日が待ち遠しいものとなってきました。その点では良かったのですが、しかし県の出前講演としては、福岡県の色がほとんど感じられず、もっぱらJR側の宣伝ないし広報的な要素が強すぎて、福岡県の係わりが事業費の１／３を負担したぐらいのことしか伝わらなかったのが寂しかったです。

【栗川　久明】

私は鹿児島出身で両親の法事や同窓会出席で時たま鹿児島に帰ります。また、週２回は博多駅工事現場の横を専門学校に通っていますので、「九州新幹線開通」を心待ちにしています。所要時間の大幅短縮や停車駅等の知識を得ましたので、開通後の乗車を楽しみにしています。

【廣瀬 紀子】

利用機会が少ないのではないかとあまり興味をもっていなかったのですが、経済効果の話や停車駅のコンセプトの話などお聞きし、いろいろな面から興味が湧いてきました。博多駅ビルや新幹線乗車、来年春が楽しみです。

～　春季流通施設等見学会　～

北九州エコタウン　　H22 年6月2日

６月２日爽やかな晴れの日に、北九州のエコタウン見学が行われました。平日にもかかわらず総勢12名がＪＲ小倉駅に集合。レンタカー１台＆小関企画副委員長の車に分乗し、若戸大橋を渡り響灘埋め立て地へ向かい、今回の企画のスタートとなりました。

私達の見学コースは、エコタウンセンタにて北九州エコタウン事業の概要DVDを見ながら説明を受け、展示物等の見学。その後バスに乗り響灘工業団地にある家電リサイクル工場とエコウッド工場の見学。天候が良かった事もあり、風車（風力発電用）のある海沿いの公園へ立ち寄り、エコタウンセンタに戻り見学コースの終了。その間、ひとりのガイドの方に説明をしていただいたのですが、あらゆる方向からの質疑にも的確に応え、参加者全員満足の見学となりました。

小倉に戻ってからは、反省会までの時間を各々小倉見学（旦過市場など）し、カラオケ付きの居酒屋にて大いに歌い、語り合い解散となりました。

念願の北九州における非常に充実した企画をしていただいた小関副委員長、岡野委員長ありがとうございました。　（廣瀬 紀子 記）

『北九州エコタウン』を見学して
～参加者の感想～

【石原 義曠】

昭和５０年代後半から平成の初め頃の現役時代に、仕事の関係もあって何度か出張などで訪れていた北九州の工業地帯に久し振りに足を踏み入れ、現況を見学させてもらいました。そこには、まだこの地を象徴する鉄鋼や化学とかセメント、電機などといった業種の大手企業をはじめ、それらを支える関連企業の工場群が確かにしっかりと稼動はしていましたが、かつて訪れた頃のようなイメージはすっかり薄れ、今や環境問題に対し産学官が一体となって「環境産業都市」へと脱皮しようとする懸命な姿をうかがい知ることができました。

今回の見学会で、出発点となった小倉駅から目的地の「北九州エコタウン」まで車で向かう途中、私にとっては懐かしい深紅の吊橋“若戸大橋”を渡りながら目にした空や海の光景は、四大工業地帯として名をはせていた頃のような、くすんだ濁色ではなく、本来のきれいな青さを取り戻していたのが印象に残りました。

出発後４、５０分してエコタウン事業エリアに到着し、まず中核施設であるセンターに立ち寄ったところ、おもてなし心に満ちた女性職員（横田さん）の方の出迎えと案内で、このエリアでの当該事業の取り組みについて説明を受けた後、関連企業のパネルや展示品などを見て廻りましたが、例えば建設廃棄物とか使い古しのペットボトルや家電品などと言った不用物が見事に再処理されて、様々な再生品に生まれ変わっているのを目の当たりにして、よくもここまでできるものだと感心

させられました。

伝統ある“ものづくりの街”北九州によって長年にわたり蓄積されてきた産業基盤とか技術ノウハウ、優れた人材といったものが活かされた素晴らしい結果なんだと感じつつ、次に見学現場である「家電リサイクルプラント」に移動しました。

そこでも、使い古しのテレビ、洗濯機、エアコン、冷蔵庫などを再資源化したり再商品化するための処理作業が行われており、当日は“テレビ”の解体から破砕・洗浄・選別といった工程の流れを見学させて貰いましたが、“百聞は一見にしかず”で、以前であれば不用品として廃棄されていた筈のものがリサイクル率５５％以上という高率で甦り、再度ブラウン管や家電品、自動車等の部品であるとか様々な原材料として再利用されていくことを知りました。

今回、環境保全と産業振興をめざす北九州のエコタウン事業の一端を見学する機会に恵まれたお蔭で、今、地球規模で求められている“資源循環型社会”といううものの姿がどんなものであるかが、はっきりと認識することができよい勉強になりました。

【渡辺 芳雄】

最初、「北九州エコタウン」と聞いたとき、ぼやっとしたイメージ的なものはありましたがそれ以上のものはありませんでした。この際これをきっかけにその実態を知り環境問題に少しは強くなりたいとの気持ちから、思い切って休みを取り参加しました。結果的には大変収穫の大きなものとなりました。

参加者は１２名。予定通り１２：４０に小倉駅前に集合。小関さんのマイカーと岡野副会長の運転されるレンタカーとの２台に分乗して見学会がスタートしました。当日は朝１０時に鳩山総理と小沢幹事長の二人が退陣するとのニュースが飛び込んでその余波が終日影響して落ち着かない一日ではありましたが、見学会のみならず、その後の反省会までスケジュール通りに運び大変充実した一日となりました。改めて、企画委員長の岡野さんと今回地元での諸準備でいろいろとお骨折りいただいた同副委員長の小関さんに御礼申し上げます。

以下見学を通じて、良かった点

（１）北九州市の環境問題への積極的な取り組み実態を知ることができた。つまりこれまでイメージ的でぼやっとしたものから、現地で現物を見て現実を確認し又将来の方向性を知ることが出来たこと。

① エコタウンセンターでの説明で「資源循環型社会の構築」がキーワードと知る

② 家電リサイクル事業の例として「西日本家電リサイクル㈱」を見学

③ 廃木材・廃プラスチックリサイクル事業として「㈱エコウッド」を見学

④ 風力発電事業として、海岸沿いに並ぶ10 基の風力発電機を間近かで見学

（２）自分自身の環境問題に対する意識が間違いなく高まり、今後の日常生活の中で活かしていきたいと思ったこと。

１７時からの魚町の居酒屋「コール天」での「反省会」にも１２名全員が参加され、ひとり３千円でおいしい料理と飲み放題のコースを楽しみ最後にはカラオケまで付いて、十分に堪能させていただきました。このあと希望者のみスナックでの２次会がありましたが、この辺りはもうよく覚えていません。これが反省点でした。

楽しい一日を有難うございました。

以　上

【福生 和彦】

（ブラウン管破砕現場で気になった事）

西日本家電リサイクル会社見学時、ラインに乗って流れて来るブラウン管を破砕している作業員の無表情な顔を見て次の事を考えた。

1．　通常の商品生産工場では単純な流れ作業の中でも「物」を作るという前向きな気持ちがあり、やりがいをそれなりに作業員は表情に出している。（以前のトヨタ工場見学時の観察）

2．　しかしこのリサイクル工場では作業員は目の前の物体の破砕だけで、これが再生産用の素材に変化するという意識は無く、ただただ金頭打で「物」を壊している風情で表情も虚無的で何処となく猛々しい所作が見受けられた。

3．　この両者の違いを感じ、労務管理の観点からトヨタ工場の様に商品生産に従事する作業員はともかく、リサイクル作業に従事する作業員のモチベーション維持また精神衛生管理がどのように為されているかが気になった。

【森山 正夫】

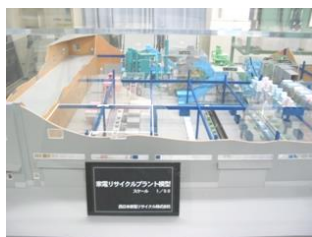
６月２日に行われた「北九州エコタウンセンター見学」は、地元に住んでいながら今まで訪れることのなかった北九州市若松区の施設を訪問しました。参加者は１２名で集合場所の小倉駅北口を車２台で分乗し目的地に向かいました。最初にエコタウンセンターで、全体的な概要説明を聞いたのち、家電リサイクル工場へ赴きました。丁度我々が行った時はテレビ受信機のリサイクルが行われていました。パーツごとに手際よく解体されている様子がよくわかりました。折からの地デジ切り替えのキャンペーンもあり、持ち込み台数も飛躍的に増加しているようです。次は廃木材、廃プラスチックの原料から再生複合材の製造工場の見学ですが、広大な敷地の中に施設が点在してる関係で車での移動となります。ラインの上を圧延された製品が出来たての大きな板チョコの様な形状でしかもまだ熱い状態で搬出されてくるのには驚かされました。耐久性は勿論、寸法も思いのまま、自由自在に利用可能であるが、コスト的にやや高いと聞きました。利用頻度を高めることで、単位当たりのコスト減に繋がればよいと思いました。今まで説明をしてくれた案内嬢の方に「あなたは市の職員ですか」という質問に、「私は響灘開発の社員です。響灘開発は北九州市の委託をうけています。」との答えをもらいました。最後に彼女から「ビオトープ」の説明がありました。一見すると水辺に葦が無造作に生い茂っているように見える光景ですが、多様な生物がすめる環境を人工的に復元した場所を「ビオトープ」といい、４８ヘクタールの広さは、国内最大級だそうです。かって産業廃棄物処分場だった海沿いの埋め立て地が、５００種類以上の動植物が見られる「響灘ビオトープ」として生まれ変わっている様子がみられます。

市によると、これまでに 284 種類の植物と 237 種類の鳥類が確認された。トンボも２４種類。ベッコウトンボや渡り鳥のコアジサシなど、環境省が絶滅危惧種とする１０種類も含まれる。ビオトープとしての正式オープンは２０１２年の予定だが、市は５月から月１回、エコツアーを催して公開している。（この項朝日新聞６月１５日朝刊記事より一分収録）見学会終了後小倉北区京町にて反省会、そののち２次会でカラオケ店に行く。今回本見学会を企画された小関理事並びに岡野副会長に改めて御礼申し上げます。

【戸田　俊彦】

野次馬根性のなせる業か、ストコンや工場見学は好きで、これまでけっこう色々な見学会に参加してきましたが、今回は非常に満足度の高いものでした。

４月の総会の記念講演で“地産地消”“旬産旬消”の一環として、福岡の海の幸の紹介がありました。それに続くテーマとしてエコロジーの一端であるリサイクル工場の見学は、時代の要請にマッチした、まことにタイムリーな企画であったと思います。

エコタウンセンターで、北九州エコタウン事業の説明を受け、響灘工業団地にある家電リサイクル工場とエコウッド工場を見学しました。そして、エコロジー（環境）とエコノミー（産業）の共存をめざしていると云う北九州エコタウン事業のコンセプト、“資源は有限、活用は無限”というキャッチコピーはまことに的を得たものであると思いました。一般的には、エコロジーと経済活動はトレードオフの関係にあると捉えられがちですし、論理的に考えれば、“もったいない”は資本主義経済に対立する概念と云うこうとになるかと思います。しかしながら、原材料に廃棄物を使うリサイクル工場は、双方を融合させるものとして今後の発展が期待されます。問題はコストと云うことになるのでしょうが、現在のところはまだ、行政の補助無しには厳しいようでした。

これまでの工場見学の経験では、少し離れた所から稼動現場を眺めることが多かったのですが、今回はDVDでの解説と実際に模型を動かしての説明もあり、非常に分かり易いものでした。又、やっている作業を見ると意外とポイントの部分は人手で行われており、機械装置の原理もわりと単純で思っていた程オートメ化はされていませんでした。年齢的な問題だけでなくメカオンチの私は、ITをはじめとしてデジタルに違和感を感じることが多く、時として恐怖心を覚えることもあるアナログ人間であるせいか、これなら自分もついていけるかなと何となくほっとする感じがしました。

予定外であったようですが、最後に風力発電の風車を見学しました。近くで見ると思っていたよりもずっとデカイ事に驚きました。ちなみに、１枚の羽の長さが４０m、重さが５トンあると云うことでした。１基３億円、１０基３０億円でドイツから購入されたと云うことですが、これだけデカければそれぐらいするだろうなと妙に納得しました。同時に、これじゃ元を取るのは不可能で、九電のこんなこともやってますよと云う広告塔以上には成り得ないだろうなと感じました。ともあれ、エネルギー問題に関心の強い私としては、一度は見ておきたいものの一つであり大きな収穫でした。

北九州市の環境問題への視点の確かさと共に感心したのが、ガイドさんの優秀さでした。よく訓練されていて幅広い知識となめらかな接遇。専門知識豊かな販売士の先生方の多方面からのつっこみにも戸惑うことも無く的確に打ち返していた様は、村上世彰ではないがプロ中のプロ、見事だなぁと思いました。

更に、話の種に一度行ってみたいとかつて思っていた、若戸大橋をエコタウンへの往復で通ったのは私にとっては一つの収穫であったと云って良いかもしれません。

最後にカラオケ付きの反省会や二次会に参加するのは初めての経験でしたが、古き良き時代の日本の文化がここにはまだしっかりと残っていることが認識できて実り多い反省会でした。

企画・運営の労をとっていただいた企画委員の皆さん、事務局のみなさんへ厚く御礼申し上げます。

【企画副委員長　小関 芳紀】

北九州エコタウンセンター見学会を
準備・実行して・・・感想文

去る６月２日(水)に春季流通施設見学会の企画として、標題の見学を準備し、合計１２名の参加を頂き、無事終了することが出来ました。

今回は、栗川会長のご方針の下、一度北九州で見学会を実行するという懸案を実現出来ました。私にとってホッとする思いと、はたして参加された皆さんに喜んで頂く事が出来るだろうか？というドキドキする思いと二つありましたが、参加された皆さんの多大なご協力を得ながら、そして概ね喜んで頂いたことが、大変うれしく思っているところです。

私自身は、生まれが北海道、育ちは関東で、北九州は縁があって移住してきた土地なので、特に思い入れは感じておりませんでした。しかし３人の子供が順番に学生や社会人で関東や関西で過ごすようになり、彼等が久しぶりに帰ってくると、母親の手料理とともに、北九州（小倉）に自分の故郷に帰ってきた安心感というか懐かしさなどを味わっているのがわかります。幼馴染みの友人との再会も存分に楽しんでいます。私自身も多分小倉で一生を過ごすと思いますので、最近、自分自身の故郷として認知し始めていると思っています。幼馴染みの親友は近くにいませんが、販売士協会の皆さんが私の大切な先輩、そして仲間と思っています。

北九州は、景気は悪く、柄も悪く外から見るとあまり良い所ではない印象と思います。
福岡からみても垢抜けない工業地帯の灰色のイメージが強いかもしれません。
しかし、『住めば都』とよく言ったものです。地方都市のコンパクトさは、日常生活の余計なストレスはあまりなく、魚は美味しいし
自然はすぐそこにあります。ちょっとドライブで全国人気ベスト３に入るすばらしい温泉があります。

関西や東京に行こうとしても、新幹線のＪＲ小倉駅まで家から１５分程度、大阪まで２時間で着き、飛行機でも北九州空港まで３０分（早朝・深夜便あります)。何しろ博多まで新幹線で１５分です！便利です。
ギャンブルも小倉競馬、小倉競輪、若松競艇と揃っています。夏祭りも花火大会も充実しています。

話は大きく横道に反れましたが、そんな魅力満載の北九州を今回は体感して頂き、本当に有難うございます。まだまだご紹介出来なかったところも多々ありますので、近いうちに第二回の北九州再発見、いや流通施設見学会の機会をつくることが出来たら大変うれしく思います。

平成 22 年度　8月21日

納涼ビアパーティ

8月 21 日 12 時より恒例となりました、福岡販売士協会「夏の納涼ビアパーティ」がアサヒビール園博多で始まりました。

参加者は総勢 14 名。長崎販売士協会より冬木副会長ら 3 名が加わり、中野さんのご主人も参加頂きました。（残念なことに中野さんのご主人はアルコールが飲めないのです。）

栗川会長の挨拶につづき、石原副会長の乾杯の発声でパーティがスタートしました。
食べ放題・飲み放題のコース（豚肉・和牛・カルビ･ラム・・等）

ここで、長崎の冬木さんが焼肉を美味しく食べる方法を提案されました。それは、肉の乗った鉄板に赤ワインを注ぎ、蒸し焼きのように料理するのです。皆さん感激、ビールに加えワインの注文が飛び交う状況でした。

ここで、またまた冬木さんの登場ですが、「うこんの粉末」を持参、周りの皆さんに提供頂きました。これで二日酔い対策は万全です。
以上のように、今回はゲストの冬木氏から新たな焼肉パーティの楽しみ方を教わりました。ありがとうございました。感謝、感謝、来年もお待ちしております。

「アサヒビール園博多」でのお得な利用方法をご案内します。
当ビール園ではシルバー割引があります。65 歳以上の方がコース料理を注文すれば、1 名に付き 500 円の割引があります。更に、インターネットで同施設を検索すれば、クーポン券を発券する事が出来ます。持参すれば料金の 10％の割引を受けられます。以上のような特典があります。

まだまだ暑い日々が続きます。健康に留意され、ビール園で楽しまれては如何でしょうか？
来年も又企画します。皆さま方の参加をお待ちしております。

最後に、ビアパーティの後は、有志による「カラオケ大会」も実施されました。
暑い日でしたが、楽しい一日でした。以上ご報告申し上げます。

（副会長 岡野 卓也 記）

投稿記事　＊　役員＊会員　　＊

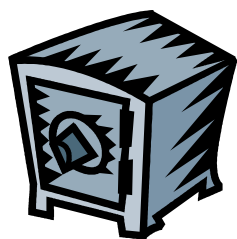
「金庫が開かない！どうしょう！」

会長　一級販売士
栗川　久明

7 月のある日、これまでスムーズに開け閉め出来ていた家庭用耐火金庫が開かなくなりました。金庫の鍵もあるし、テンキーの暗証番号も覚えていますが、何回トライしても開きません。テンキーの電子音は鳴っていますが、念のために、乾電池を新品に換えてみました。しかし開きません。

そこで、取扱説明書を探し出し、解錠方法の記載をみましたが、ヒントになることは何も書いてありませんでした。また、暗証番号のリセット方法は扉の内側からの操作であり、扉が開けないと出来ないことがわかりました。

そこで、インターネットで、金庫の開け方のヒントを貰おうといろいろ検索をしてみました。

まず分かったことは、金庫メーカーの WAKO（和光鋼業株式会社）はすでに倒産しており、メーカーサービス部門への問合せはできないということです。WAKO の業務を引き継いでいる会社があり、大型金庫であれば形式などを添えて聞けば、教えてくれるのではないかということでした。ただ、防犯の観点から、個人であれば、何らかの身分証明を求められ、サービス料も 4～5 万円かかるだろうということでした。

さらにインターネットで、何とか金庫を開けるヒントが記載されていないか調べてみましたが、「例え、あなたが困っているとはいえ、こんな公の場で金庫破りの方法を堂々と開示してしまったら、世の中の窃盗犯どもが大喜びするだけです、その責任をあなたは全て取れるのですか？会社が潰れているのなら専門業者に依頼してください」と、最後は突き放された感じでした。

そこで、専門業者にサービスを頼もうと、「カギの 110 番」に電話してみました。金庫解錠の出張サービスは、最低料金が 21,000 円で、作業状況でプラスαになりますということでした。

あまりにも高額なのと、耐火金庫の寿命（耐火性）は 20 年ですよと聞いて、寿命に近づいた金庫を壊して、中身だけを取り出そうと決意しました。

まずは持っている工具の金切りノコ、マイナスドライバー、ハンマーを使って、扉の鍵ロッド部分の開放を目指しました。まず、表面鋼板を破るとコンクリートが出てきて、さらに内面鋼板を破り、鍵ロッドの鋼板ケースまで到達することができました。ここから先の鋼板ケース切断はマイナスドライバーでは無理と考えました。そこで、目標を変更し、扉の蝶番を切断しようと、金切りノコで蝶番のシャフト切断に成功しましたが、やはり扉は開きませんでした。

2 日目は、強力な工具を入手してからと、ホームセンターで平タガネと平バールを合計 1,350 円で購入してきました。平タガネで鍵ロッドケースを切断して、平バールでこじ開けると、意外と簡単に扉が開きました。

破壊した金庫は、福岡市の粗大ゴミ受付センターにお願いして、1,000 円で引き取ってもらい、一件決着しました。

滅多に経験しないことですので、みなさんのお役に立てればと思い書いてみました。

閑話“もったいない精神”が地球を救う！

副会長　一級販売士
石原　義曠

ケニアの環境保護活動家のワンガリ・マータイさんが、世界的に広めてくれた日本語といえば“もったいない！”でした。

私などが子供の頃には、近所のお年寄りなどが「ものを大切にしよう」という意味で、よくこの言葉を口にされていたんですが、世の中が豊かになって高度成長期のような使い捨て時代を経て、いつの間にか、かつての日本の美徳でもあった筈の“もったいない”という言葉と共にその精神までも忘れ去ってきてしまったように思います。

本当にもったいない気がします。

歴史をたどってみると、まさに“もったいない精神”を地でいく社会というのが江戸時代であったとＳＦ作家で江戸文化研究の第一人者である石川英輔さんが語っておられたのを何かの雑誌で読んだ覚えがあります。

資源やエネルギーの循環という真の意味でのリサイクル文化が根づいたのが当時の江戸時代で、世界でも稀に見る程の循環型社会が、この時すでにできあがっていたんだそうです。

当然のことながら、電気もガスも石油もなかった社会ですから、動力といえば９５％以上が人力であったために、モノを作るにも何をするにも人手でコツコツとやるしかなかった時代で、食べ物はもとより着る物や灯りとか燃料など殆どの日用品は、すべて植物を最大限に活用しその恩恵を受けた後は、またしっかりと土に戻すというリサイクル文化が存在したと言われています。

例えば、米ひとつとってみても収穫後の藁は堆肥として、あとは衣としての蓑、草履、背当てに、そして米俵や釜敷きに。住の面でも、土壁用とか畳床というように無駄なく使いきってしまい、また綿花にしても糸を紡いだあと、反物に織り上げて着物に。そして古着、古布、雑巾などとしてトコトン使い尽くし、最後は灰となって土へと還るというように１００％完全にリサイクルされていたのには頭が下がります。

でも実は、こうしたモノを無駄なく使い切り、かつ再生をはかる自然循環型社会というのは、私が小学校低学年であった昭和２０年代前半の頃までは、確実に受け継がれていて日々の生活の面で目にしたり体験していたことを想い出します。

私自身、現代社会の無駄の多い生活様式にすっかり慣れ切ってしまっていましたが、この春の流通施設等見学会で「北九州エコタウン」を視察する機会を得て、改めて地球環境を守る産業の振興や新たな生活様式の開発のために、まずは“もったいない精神”を原点に置くことの必要性を感じています。

ものづくり企業は事業化がへた！

研修委員長　一級販売士
中村　純治

私は最近ものづくり中小企業を支援する機会が多い。その度に良く思うことは「ものを作る企業は新製品を開発することは非常に得手だか、その新製品を販売することは非常に不得手だ」、つまり「ものづくり企業は事業化がへた」と言うことである。

それらの企業は確かに先進的な技術を駆使し、実用化可能なレベルまで展開している。中には大学や公的研究機関と連携し、とてもハイレベルな製品を生み出している。しかし、それら新製品は実用化までは到達するが、事業化までは到達しないのである。なぜかと言うと市場ニーズを充分に調査せずに開発側から一方的に見た新商品開発をしていることが多いからである。

当然それらの企業は口を揃えて同じことを言う。「良い製品ができました。どのように売ったら良いのでしょう。」と。売れないのは当たり前ですよね。市場が欲しい製品を作っているわけでないから。今は消費主導型経済であることを忘れてはならないのです。

ではどのようにすれば良いのでしょうか。型どおり申し上げると、「①需要予測をおこなう→②市場調査を行う→③市場テストを行い、顧客反応を見る」ことである。でも経験から言って一番大切なことは「開発段階から小まめにユーザーの意見を取り入れる」ことである。開発段階から小まめにユーザーの意見を取り入れると、方向修正が容易にできユーザーニーズに最も近い製品が出来上がる。商品が完全に完成したあとで方向修正は不可能に近い。欲を言えば、小まめに評価に協力してくれるユーザーを確保しておければなお良いと言えます。

私も技術屋であったから良くわかるのですが、論理的思考には強いが感性には弱いのである。自分の思いを貫くことには積極的であるが、人の意見を聞くことには消極的である。個性を重視することは気が向くが、世間に同調し流行を追いかけることには無頓着なのである。そんな技術者が開発した製品は手前味噌なことが多い。

そうならないためには、販売士の勉強を進める。特にマーケティングの勉強は欠かせない。消費者の気持ちが良く分かる技術者の多い企業が、他の企業との差別化を図り成長発展していくのかも知れない。

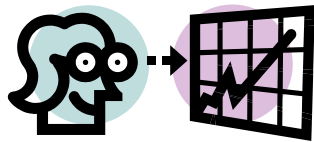
ソブリン・リスク（国家財政危機）を考える

一級販売士
戸田　俊彦

はじめに

経済学部の出身ではあるのだが、卒論も出さずお情けで卒業させてもらった有様なので、大学で何を習ったのかも覚えていない。流通業の現場を離れて、経済のマクロ的な動きに関心が向くようになって、学生時代“金融論”、“恐慌論”ぐらいまともに勉強しておけばよかったなぁと悔やんでいる。

サブプライムローン、リーマン・ショック、グローバル金融恐慌、ギリシャ危機（ソブリン・リスク）、合成の誤謬等々の活字が新聞紙上

をにぎわしているが、いまいちそのつながりが理解できないでいた。年をとったせいでもあるだろうが、なんとなく、これからの日本社会はどうなるのだろうか？自分達の日常生活はどうなるのだろうか？と不安と焦燥感を感じることが少なくない。人間は先が見えないと、良いにしろ悪いにしろ不安を感じるものらしい。そこで、その手の解説本や雑誌、インターネットで情報を集め、自分なりに整理し、今後世界経済がどう動くのか、それに従って日本の社会はどうなるのか見通せるようになりたいと考えている。そうなれば、何となく感じている不安から逃れられるのではないかとの思いからである。

次に

リーマン･ショック後、合成の誤謬という言葉と共に、シカゴ学派の新古典主義・新自由主義は破綻した。マネーゲームによるバブル経済は終焉し、まともな資本主義が復活するだろうという楽観論が一部で流れていたが、現実には投機資本によるバブルがたちまち復活している。そして、金融危機で生じた負債を国家が肩代わりしたことにより今度は国家財政の危機が発生しているようだ。

菅総理が、これ以上財政赤字が増えたらギリシャのようになるので消費税を１０％に引き上げると主張し始めた。しかし、ギリシャ危機はアメリカの格付会社と投機資本によって仕組まれたものであり、ＥＵとＩＭＦの介入によって仕掛けた方が敗退し、逆に痛手を受けたという説が有力になっている。かつてのアジア通貨危機と同じように投機資本のなせる業であるということらしい。

それでは、日本の国債は本当にデフォルト（債務不履行）の危機にあるのだろうか。ちなみに、国家財政の破綻とは新しく国債を発行しても買い手がなく返還期限のきた国債の払い戻しが出来ない状態を指す。週刊エコノミスト特大号“国債暴落のウソ・・・これだけあるギリシャとの違い”を読むと、当面その心配はなさそうである。日本の国債は９５％日本の金融機関に保有されており、外国の投機資本のターゲットにはならない。それに対して、ギリシャは７０％が外資の保有で今回のように外国の金融資本の動向に左右される。２００９年の財政赤字の対ＧＤＰ（国内総生産）比率は、米国１１．２％、英国１２．６％、ギリシャ１２．７％、日本７．４％で他国に比べて日本が特に高いわけではない。又、日本は世界一の対外債権国である。更に、ギリシャ危機の時、日本の国債と円（通貨）は逆に値上がりしている。すなわち、世界の市場から日本は安全パイであるとの評価を受けていた結果であるということになる。

国債の価格の逆指標である利回りを見ると、１０年前２．０％だったのが、ギリシャ危機のときは１．１％まで下がり、現在は１．３％前後で落ち着いている。云いかえれば、財政赤字が拡大したにもかかわらず国債の価格は値上がりしているということである。そして、その要因は企業に資金需要がないため金融機関には資金がダブついており、当面の運用先として国債が買われているためだと云うことのようである。どうやら菅総理の主張は現状では当てはまらないようだ。

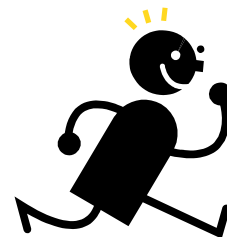
終わりに

同志社大学教授の浜矩子氏によると、アメリカのドルはこれまで世界通貨（基軸通貨）であったため実力の２倍の過剰な評価を受けており、遠からず１ドル５０円まで下落するだろうということである。そうなった場合、日本政府が保有している１００兆円の外貨準備はどうなるのだろう。５０兆円に目減りするのだろうか？そのときにはドルは基軸通貨ではなくなっているだろうから、アメリカ以外の国との決済には使えないだろう。しかし、アメリカに対する支払いには使えるはずである。対アメリカ限定ではあれ、資産価値が目減りするわけではなさそうだ。

先ずは１０００万歩、
そして地球１周挑戦

一級販売士
山路　博之

私は６０歳代後半、高齢者の仲間だ。約１０か月前、バイクで帰宅途中、後ろから車に追突され、背骨の一部を圧迫骨折した。４カ月ほどリハビリに専念せよと医者から言われ、週３日のテニスができなくなった。運動を常時していた者には、動けず、運動ができないこと程つらいことはない。幸い、背骨を曲げずに歩くことは問題ないので、なるべく歩くことに努めた。しかし、冬の最中だったので、寒いと外出が億劫になりがちで、何とか毎日歩く機会を作れないものかと持ち前のプラス思考で思い立ったのが、歩くことを仕事にすれば、リハビリにもなるし、体を動かすことで回復も早まり、しかも小遣い位の収入がもらえるということで、POSTING をすることを決め、早速、業者に申し込み、その仕事を始めた。

その効果は思った通り抜群だった。１日に歩く時間は１～２時間だが、坂道、階段と続くウオーキングは結構運動量があり、脚の各部筋肉も増強され若いときのように硬く締り始めた。
そして、１０００万歩測れる万歩計を購入し、累計歩数をチェックするのが楽しみになった。その後、テニスも以前と同じペースで出来るようになり、万歩計を常時肌身離さず装着して、その日の最後に今日は何歩歩いたか、チェックするのが楽しみになった。
POSTING も義務化されたものでなく、自分の都合のいい日、時間に、ちょっと歩いてくるかと思うと、体もすぐ反応し、ウオーキングが楽しみになった。夏の４０度近い炎天下で３０分も歩くと汗びっしょり、体重も１～２KG はすぐ減る。しかし、夏の早朝の涼しい時間に１～２時間散歩する感覚で、歩いて健康を増進しながら、それが僅かながらもお金になる楽しみも覚えた。
現在１時間で６千歩平均ペース。１日で多いときは２万歩以上、平均１万歩。万歩計の累計は現在２００万歩は超えている。平均歩幅は６０CM 位で、１日平均約６KM ということになる。
１年で約２２００KM というところか？日本列島の北から南のはてまで約３５００KM なので、２年も経たずに縦断する計算だ。今の調子でいけば１０００万歩は３年もたたないうちに達成するだろう。
１０００万歩は約６０００KM で、地球１周は約４万キロといわれているので、７年もすれば、地球１周歩いて回ることになる。生まれてこの方、学生時代から続くテニス、中年時代のフルマラソンとその為の練習、その他、海外出張の度に、その町を随分あるきまわった。それらを合計すると多分ゆうに４万キロは歩いているだろう。しかし、１０００万歩、そして地球１周への挑戦も、高齢年代に入ってからの挑戦にこそ意義があると思う。そしていつか、歩いて得た金で、ホノルルマラソンに挑戦し、そして乗物を利用し本当の地球１周をしたいものだ。
その達成の条件は、いつも元気で無理をせず継続すること。その結果、元気な長寿生活が送れれば、それにこしたことはない。皆さんの中で、私と同じ思いの方には、ぜひお勧めしたい。

気になるKEYWORD ～住宅エコポイント～

広報委員長
消費生活ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
廣瀬　紀子

暑い暑い夏の７月初旬、我が家の内窓工事が行われました。気になる住宅エコポイントの話も含め、体験記を書きたいと思います。

◆住宅エコポイントとは？

経済対策の三本柱（グリーン家電、エコカー減税＋補助金）＆地球温暖化対策で今年度創設された制度。ＣＯ２排出量は、基準となる1990年に比べ2008年度は全体で6.3％増。分野別に見ると産業－9.4％減、業務41.3％増、運輸8.5％増、家庭34.7％増。全体に占める家庭の割合は１５％弱ですが、商業・サービス等の業務や家庭のＣＯ２排出増対策というのが制度創設の背景。（出所・環境省「2008年度の温室効果ガス総排出量」）

◆なぜ我が家は今回工事を決断したか？

実は五年程前にこの家に越してきた時からの悩みでもある、すぐ近くを通るバイパスの騒音。昼間は気になる程でもない事、夜も眠れない程ではない事から、リフォームへの優先順位は下げられたままでした。今年に入り、ＣＭで流れる内窓の話、ニュースで話題になる住宅エコポイント、ポスティングされるリフォーム業者のチラシ…気になるけれど賢い消費者を目指す私としては（笑）、きちんと調べて動きたい。その時にYKKAPさんの話が聞ける＆住宅エコポイントの話が聞けるという企画があり、参加し納得して行動に移ったのでした。納得したのは下記の点！

内窓に納得

①防音：体験させてもらって効果を納得！工事後も我が家で効果納得。

②取り付け簡単：実際に短時間で終了。大きな窓２箇所、小窓４箇所（１箇所はちょっと特殊）にもかかわらず３時間ちょっとで終了。

③窓のバリエーション：通常のガラスでなく和紙調ガラスもあり。⇒和室の障子を外して内窓に変更だった為、見た目を心配してましたが、出来上がりは部屋が明るくなり洗練された感じに?!

④断熱効果：暑い夏の昼間窓を閉めた状態で帰宅しても、部屋があまり暑くない。寝る前に部屋を涼しくしてると、寝苦しくなく朝もそこまで暑くない。⇒数字的なものはないが、昨年に比べての実感！

⑤防犯：戸建では気になる昼間の防犯問題(@_@)。２重窓になっているので簡単に侵入されないのではと期待。

⑥結露抑制：まだ効果は不明だが、２重になることで外気との温度差はかなり改善｡冬場の結露解消を期待!

住宅エコポイント＆助成に納得

①住宅エコポイント：今年度制度がｽﾀｰﾄ、窓の断熱工事がポイント対象

②福岡市住宅省エネ改修助成事業：福岡市在住＆福岡市業者という条件で、エコポイントの2/3の助成金

なんだか宣伝マンのようですが、リフォームにはお金もかかるし、簡単にやり直しもきかないので悩むところです。今２ヶ月半程過ぎましたが、窓を閉め切ると全くというくらい車の騒音は聞こえません。安らかに睡眠がとれ、断熱効果でエアコン利用時間も短くなりました。今年は暑い夏でしたから、その効果についてははっきりと実感できています。

イニシャルコストはそれなりにかかりましたが、省エネでランニングコストへの期待と環境への配慮（Economy＆Ecoｌogy）もちょっとはできているのではという満足感があります。そして・・・

「エコ貧乏」と笑いながら、快適な部屋でエコポイント＆助成金を待つ日々です♪

～お知らせ～

◆秋季流通施設等見学会◆

日　時：平成22年10月9日（土）

場　所：イオンモール福岡ルクル店

◆インターネット教室◆

日　時：平成 22 年 11 月 13 日（土）

場　所：NTT－IT プラザ福岡

◆新春懇談会◆

日　時：平成 23 年 1 月 22 日（土）

場　所：福岡商工会議所 605 会議室

◆福岡販売士協会のホームページ◆

検索エンジンを使い、「福岡販売士協会」のキーワードで検索できます。
皆さんのご訪問をお待ちしています。

http://www.farmmc.jp/

会報および福岡販売士協会へのご意見・ご要望は、下記の連絡先までお願いします。

◆福岡販売士協会･会長　栗川　久明◆

〒810-0055　福岡市中央区黒門8-38-402

TEL/FAX：092-725-6200

携帯電話：090-7753-8018

Eメール：fukumae@zenno.jp

福岡販売士協会・現況報告

会員状況（平成２２年９月）

区分	人数
正　会　員	７３名
１級販売士	58 名
２級販売士	１１名
３級販売士	１名
宮崎支部	３名
賛　助　会　員	５社

福岡販売士協会役員体制（平成２２年５月）

役職	氏名
会　　長：	栗川　久明（事務局長兼務）
副 会長：	石原　義曠
副 会長：	岡野　卓也（企画委員長兼務）
理　　事：	中村　純治（研修委員長）
理　　事：	八尋　晃仁（研修副委員長）
理　　事：	小関　芳紀（企画副委員長）
理　　事：	廣瀬　紀子（広報委員長･会報）
理　　事：	中野　法子（広報副委員長･ＨＰ）
理　　事：	渡辺　芳雄（総務委員長）
理　　事：	長沼　玲子（総務副委員長）
理　　事：	岩切　寛文（宮崎担当）
監　　事：	濱村　昌男
監　　事：	福田　紘司
顧　　問：	大原　　盡
顧　　問：	福生　和彦
顧　　問：	櫨本　　攻

委　員　会　体　制

委員会	委員長	副委員長
研修委員会	委員長：中村 純治	副委員長：八尋　晃仁
企画委員会	委員長：岡野 卓也	副委員長：小関 芳紀
広報委員会	委員長：廣瀬 紀子	副委員長：中野 法子
総務委員会	委員長：渡辺 芳雄	副委員長：長沼 玲子